虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です。

虹の架橋

第３１６号
令和３年12月１日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL 0277－73－1212
Fax 0277－70－1066

今月の題字
千喜良　務さん
（桐生信用金庫大間々支店長）
桐信大間々支店の入口には毎月「虹の架橋」最新号が貼られています。地域貢献活動にも支店ぐるみで協力してくれる頼もしい支店長です。

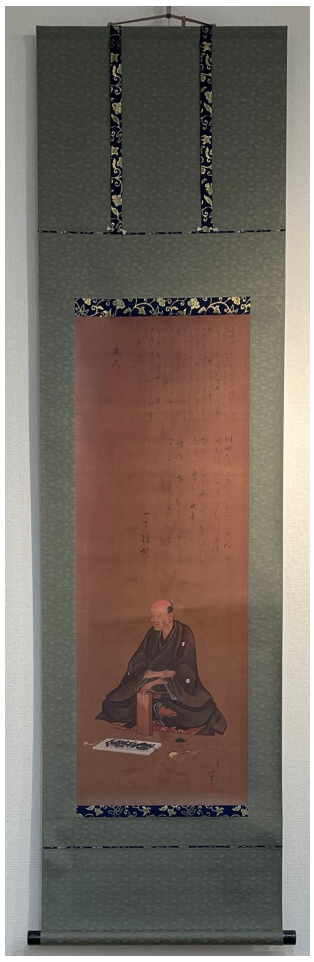
北斎が描いた大間々の上山喜兵衛
二代目浅草庵深澤新兵衛像も展示

昨年、長野県小布施町の北斎館で、大間々の狂歌師・上山喜兵衛を描いた葛飾北斎の肉筆画が特別展示されて大きな話題になりました。この作品は大間々の星野哲夫さんが所有していたものを小布施の北斎館に寄贈したものでした。

このたび星野さんから、北斎が描いた上山喜兵衛像（レプリカ）をお借りして足利屋で展示させていただくことになりました。葛飾北斎は上山喜兵衛の狂歌の師・初代浅草庵市人の狂歌本の挿絵を描いていた縁から喜兵衛の肖像画を描いたようです。

当時、大間々は上州における狂歌の中心地であり、初代浅草庵を継いだ二代目浅草庵守舎（深澤新兵衛）も大間々三丁目（現コノドント館あたり）に住んでいました。今回は、深澤新兵衛の子孫の深澤直樹さんのご厚意で新兵衛の肉筆肖像画も展示させていただけることになりました。深澤新兵衛像は葛飾北斎の一番弟子といわれた蹄斎北馬が描いたものです。

江戸時代の大間々の文化の高さと北斎一門との関係を知る上で貴重な二点の作品を足利屋でご覧下さい。


葛飾北斎画　上山喜兵衛肖像画

深澤新兵衛像

小耳にはさんだ いい話
（文責・靖）《316》

継続するための秘訣

事務所の本棚にあった『正しく生きる』という本を読み返しました。この本は「掃除を通じて、世の中から心の荒みをなくしたい」という目的で活動を続けているＮＰＯ法人「日本を美しくする会」の相談役でイエローハット創業者の鍵山秀三郎さんが書いた本です。この本の中に「継続するための秘訣」が書かれています。

なにかを継続するには、「工夫すること」が欠かせません。ふつう単純なことは工夫する余地がないと思われていますが、そこを工夫するのです。たとえば掃除は、もう工夫するところなどどこにもないと思われています。だから続かないわけです。工夫することが継続のエネルギーになります。工夫して改良していけば、気持ちが前向きになってやる気が起きてきます。つまらないと思っていたことがおもしろくなり、長く続けることができるでしょう。

それともうひとつ、継続するための秘訣があります。それは、自分の心の底に絶えず「人を喜ばそう」という気持ちを抱いていることです。それがない人は、いくら目先を変えてみても継続することができません。表面的な利益を求めて「これを習慣にすると得をする」というような考えで続けようと思っても、決してうまくはいきません。また「誰か早く認めてくれないかな」と思ったり、打算や名誉心を持ったりすると続かないのです。なぜなら、自分の期待が外れるからです。甘い期待というのは、ことごとく外れるものです。期待が外れた瞬間にいやになってしまいます。人生では期待通りに行くことなどほとんどありません。そのときに自分を奮い立たせてくれるものが「工夫」と「人を喜ばせたい」という思いなのです。

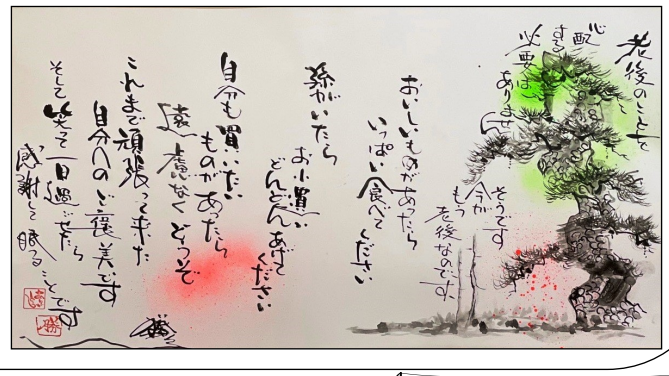
十年以上前、富弘美術館のトイレ掃除をしているシルバー人材センターの方たちと一緒に掃除をしたことがありました。先日、富弘美術館で十年前に一緒に掃除をした方から「トイレ掃除のスポンジの選び方を教えてください」と尋ねられたので、イエローハットで売っている洗車用のスポンジを差し上げました。

その方は自分の仕事であるトイレ掃除に誇りを持ち、常に工夫をし、人を喜ばそうとしている人なのだろうと思いました。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の詩画《316》
大野勝彦さん『老後』

熊本の詩画作家・大野勝彦さんから素敵な詩画を頂きました。「老後のことを心配する必要はありません。そうです、今がもう老後なのです。美味しいものがあったらいっぱい食べてください。自分も買いたいものがあったらどんどんあげてください。孫がいたらお小遣いあげてください。こんなご褒美です。そして、笑って一日過ごせたら感謝して眠ることです」　その通りっ！。



靖ちゃん日記

令和三年十一月十七日（水）

大間々高校百二十一周年記念シンポジウム「みどり市・大間々の未来を考える」が開かれ、わたらせ渓谷鐵道の品川知一社長、近藤酒造の近藤雄一郎社長と一緒に招かれた。司会はみどり市観光大使の富所哲平君。大間々高校「みらい塾」の今井綺星さんと武井悠人君の発表を聞き、感想や意見を述べ合った。有意義なシンポジウムだった。何か新しい動きが生まれると思った。昨日は高校生たちがバーチャルスタンプラリーで街中を散策、商店街に活気が漲っていた。自分も高校生に交じってスマホを片手にチェックポイントを八か所クリアした。人外街を歩くことで会話と笑顔が生まれる。司会の富所君が「毎日、スタンプラリーをやればいい」と言った。高齢者の多い商店街ではバーチャルなイベントは難しいが、リアルで元氣なバー（婆）チャンのイベントならば何か考えられそうだ。

息白し青信号待つ万歩計

夜明けが日に日に遅くなり、朝のウォーキングでも吐く息が白くなってきました。家を出てから帰るまで般若心経を唱えながら約四十五分歩いています。信号が赤になるとポケットから万歩計を取り出し、歩数を確認します。般若心経は二百六十六文字。一文字一歩で歩けば四十五分で約六千歩以上歩くことになり、百日間続けると般若心経を二千四百回お唱えすることになります。

ダイエットと健康管理を目的に始めたウォーキングですが、毎日の目標をクリアできる喜びと健康で歩ける幸せを実感しています。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん

虹の架橋 ⇑ 検索 で、インターネットからでもご覧いただけます。

第三百十七号は令和四年一月一日（土）発行予定です。